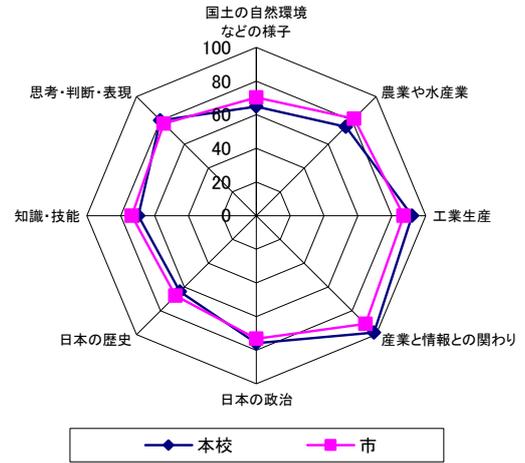


# 宇都宮市立東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

|     |              | 本年度  |      |      |
|-----|--------------|------|------|------|
|     |              | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 64.8 | 70.3 | 66.4 |
|     | 農業や水産業       | 74.7 | 81.6 | 75.3 |
|     | 工業生産         | 92.0 | 87.0 | 77.7 |
|     | 産業と情報との関わり   | 98.3 | 91.0 | 81.3 |
|     | 日本の政治        | 75.9 | 73.2 | 75.3 |
| 観点別 | 日本の歴史        | 63.8 | 67.4 | 68.5 |
|     | 知識・技能        | 69.6 | 73.5 | 72.5 |
|     | 思考・判断・表現     | 80.1 | 77.3 | 71.5 |
|     |              |      |      |      |
|     |              |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域+RC:R[13]C[15] | 本年度の状況  | 今後の指導の重点   |
|------------------|---|--|
| 国土の自然環境などの様子     | <p>平均正答率は64.8%であり、市の平均を5.5ポイント下回っている。</p> <p>○冬の季節風について答える問いでは、市の平均を若干上回った。</p> <p>●日本周辺の海洋名や赤道について理解しているかの問題では、市の平均を下回っている。特に、赤道を答える問題は、正答率51.7%と、半数程度の正答であった。</p>       | <p>・5年最初の単元である国土の様子では、地球儀や世界地図等を利用して児童自ら考えながら学習を進めることが大切である。また、白地図等を使って自分で書いてみるなどの活動を充実させる。</p>  |
| 農業や水産業           | <p>平均正答率は74.7%であり、市の平均を6.9ポイント下回っている。</p> <p>○漁業の問題では、水揚げされた魚を新鮮に保つ工夫について図を読み取る問題では、市の平均を若干上回っている。</p> <p>●米の生産の盛んな地域や米の品種改良について、資料を読み取る問題では、市平均を大きく下回っている。</p>           | <p>・農業生産では、なぜ品種改良を行うのかについて、用語だけでなくその目的や意味を考える学習が重要である。</p> <p>そのため、社会科で出てくる用語の意味を児童自身が考え、皆で話し合うなど、立ち止まって学ぶ学習が必要である。</p>  |
| 工業生産             | <p>平均正答率は92%であり、市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>○自動車工業では、自動車の製造過程についてや安全性の高い自動車作りについてよく理解しており、高い正答率が見られる。</p> <p>○日本の貿易の変化について、帯グラフを見て答える問題では、市平均を9ポイント上回っている。</p>               | <p>・自動車工業の学習は、実際に自動車工場に見学に行き、丁寧に学習を進めてきた成果が出ている。</p> <p>・貿易の変化については、自分の言葉で答える記述式であったことから、今後も様々な学習内容について、資料を活用しながら進めることはもちろん、自分の言葉を使って説明するなどの経験を積んでいけるように配慮していく。</p>  |
| 産業と情報との関わり       | <p>平均正答率は98.3%であり、市の平均を7.3ポイント上回っている。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率が100%である。</p> <p>○情報を生かした産業について考える問題では、正答率が96.6%と高い。</p>   | <p>・基礎的な知識は、十分定着していると考えられる。「私たちの生活と情報の関わり」について、これからも学習したことをもとに自分の生活を振り返るなど、生活の中での情報との関わりについて考えられるようにしていく。</p> <p>・資料やニュースなど、複数の情報を比較し、信頼性や妥当性を自分で見極める学習を取り入れることで、情報を自分の生活に結びつけて正しく判断する力をさらに伸ばしていく。</p>                 |
| 日本の政治            | <p>平均正答率は75.9%であり、市の平均を2.7ポイント上回っている。</p> <p>○租税の役割についての理解をもとに判断する問題では、正答率が86.2%で、市の平均を19.2ポイント上回っている。</p> <p>●「基本的人権」という言葉を記述する問題で、正答率は51.7%であり、市の平均を17.1ポイント下回っている。</p> | <p>・租税教室などの出前授業を効果的に取り入れたことが、高い正答率につながった。適切な場面で出前授業を活用し、社会の仕組みと自分たちの生活を結び付けて理解できるような指導計画を検討していく。</p> <p>・日本国憲法の三つの原則である国民主権・基本的人権の尊重・平和主義について、図や具体的事例と結びつけて示し、社会の仕組みの中でどのように生かされているかを考えさせることで、語句と内容を関連付けて確実に定着させる。</p> |
| 日本の歴史            | <p>平均正答率は、63.8%であり、市の平均を3.6ポイント下回っている。</p> <p>○豊臣秀吉の業績(刀狩)について理解を問う問題では、正答率が89.7%と市の平均を8.8ポイント上回っている。</p> <p>●「かな文字」という言葉を記述する問題では、正答率は34.5%であり、市の平均を38.5ポイント下回っている。</p>  | <p>・選択問題は市の平均をおおむね上回っている一方で、短文問題で課題が見られる。理由や根拠を整理し、必要な語句を選んで書く活動を取り入れることで、知識を言語化する力を養っていく。</p> <p>・かな文字が生まれた背景と、源氏物語との必然的なつながりを理解させるなど、背景と結びつけた語句の理解を進めていく。</p>  |